

はじめに

本報告は、平成 17 年より毎年調査・公表している「中高年者縦断調査」のデータが、平成 27 年調査（第 11 回調査）で 10 年間分蓄積され、調査対象者も全員 60 歳以上となったことから、パネルデータの特性を生かした団塊の世代を含む中高年世代の行動変容について、独立行政法人労働政策研究・研修機構の協力を得てまとめたものである。

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、団塊の世代を含む全国の中高年者世代の男女を追跡して、その健康・就業・社会活動について、意識面・事実面の変化の過程を継続的に調査し、行動の変化や事象間の関連性等を把握し、高齢者対策等厚生労働行政施策の企画立案、実施等のための基礎資料を得ることを目的として、平成 17 年度を初年として実施しているものである。

2 調査の対象

平成 17 年 10 月末現在で 50～59 歳である全国の男女を対象とし、厚生労働省が国民生活基礎調査を基に調査客体を抽出した。

3 調査の時期

調査の周期 毎年 1 回（11 月の第一水曜日）

4 調査の事項

家族の状況、健康の状況、就業の状況、住居・家計の状況 等

5 調査の方法

第 5 回調査までは、調査員による配布・回収、第 6 回調査以降は郵送により行った。

6 利用上の注意

(1) 調査回における対象者の年齢は以下のとおりである。

第1回調査	(平成17年 2005年)	50～59歳
第2回調査	(平成18年 2006年)	51～60歳
第3回調査	(平成19年 2007年)	52～61歳
第4回調査	(平成20年 2008年)	53～62歳
第5回調査	(平成21年 2009年)	54～63歳
第6回調査	(平成22年 2010年)	55～64歳
第7回調査	(平成23年 2011年)	56～65歳
第8回調査	(平成24年 2012年)	57～66歳
第9回調査	(平成25年 2013年)	58～67歳
第10回調査	(平成26年 2014年)	59～68歳
第11回調査	(平成27年 2015年)	60～69歳

(2) 表記について

本概況は、多変量解析の手法を使った分析を中心に構成されており、図表の数値については、原則として、統計的有意水準（信頼性）について危険率が10%以内のもののみ表示している。

なお、図中の星印については、統計的有意水準を表している。

凡例については、以下のとおりである。

***	1%水準で有意な結果
**	5%水準で有意な結果
*	10%水準で有意な結果

(3) 表章記号の規約

計数のない場合	—
比率が微小（0.05未満）の場合	0.0

(4) 本概況の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が総数に合わない場合がある。

※ 詳細な内容については、「中高年者縦断調査（中高年者の生活に関する継続調査）特別報告」を参照されたい。